

令和7年度 野州市小中学校教育研究会 視聴覚教育部会研究報告

1 都市名 野州市

2 研究テーマ

多様なメディアと「ふれあい」「あそびあい」「創りあえる」子どもを育てよう
 ～児童・生徒のあゆみに寄り添って、多様なメディアを通して対話しあえる授業の実現をめざそう～

3 研究活動の組織・体制

部 会 長		幹 事		研究推進委員	
小濱 玲子 (篠原小)		國弘 俊一 (篠原小)		國弘 俊一 (篠原小)	
山口 孝志 (野洲北中)		赤穂 優花 (野洲北中)		赤穂 優花 (野洲北中)	
各 校 代 表 者	学 校 名	氏 名 (学年)	学 校 名	氏 名 (学年)	
	中主小学校	川尻歩野佳 (4)	中主中学校	中村 優 (2)	
	篠原小学校	國弘 俊一 (教)	野洲中学校	山口 諒 (3)	
	祇王小学校	西川 大貴 (2)	野洲北中学校	赤穂 優花 (2)	
	三上小学校	岩見 一樹 (2)			
	野洲小学校	三上 芳典 (教)			
	北野小学校	鎰廣 武伯 (教)			

4 年間研究活動報告

学 期	活 動 の 概 要
1 学期	・研究活動計画の組織・体制・主題の決定 ・視聴覚・情報機器を活用した授業の実践 (各校) 及び情報交流
2 学期	・視聴覚・情報機器を活用した授業の実践 (各校) 及び情報交流
3 学期	・視聴覚・情報機器を活用した授業の実践 (各校) ・研究のまとめ

5 野洲市立篠原小学校の取組と実践

野洲市立篠原小学校では、1人1台端末の導入以降、少しずつ授業の中でもタブレット端末を活用した授業実践を進めてきた。下学年の授業においては、カメラ機能を活用した観察や記録、上学年の授業ではアプリケーションの活用を推進している。その代表的な例が「ロイロノート」と「マイクロソフトチームス」である。

さらに総合的な学習の時間を中心に、中学年からはインターネットを活用した調べ学習に積極的に取り組んでいる。自習や休み時間を中心にタイピングソフトやプログラミング、タブレットドリルにも取り組んでいる。

また、本市ではICT推進委員会による市全体のICT機器での活用を推進しており、各校におけるICT実践事例を共有したり、これからの活用を議論し検討したりしている。本校においても、ICT推進委員会で検討したことや各々の教師がこれまでの実践等で得られた知識を活用し、授業実践を中心に日々様々な教育活動でICTの活用を推進している。本報告では、6年生の算数科の授業実践と、2学期に行った音楽会における実践事例の一部を紹介する。

(1)第6学年 算数科での実践

ロイロノートにおける共有ノートを活用すれば、従来行っていた、子ども同士の意見交流を活性化することができる。その一つの要因として、子ども同士のノートをタブレットの画面を通して瞬時に共有できるというICTの特徴があるからである。また、算数科で、表などを用いて分類整理したり読み取ったりする学習において、多様な考え方を視覚的に共有することで、自らの考えを再構築し、より深い学びの実現にもつながると考えられる。

②実践授業の指導案(抜粋)

1 単元名 「場合の数」(6年)

2 本単元の目標

並べ方や組み合わせ方について、起こり得る場合を図や表などを用いて順序よく整理して調べることができる。

3 単元計画 (全9時間)

時	単元の目標
1・2時	いくつかのものを順番に並べるとき、並べ方は全部で何通りあるか求める方法を理解する。
3時	全体から一部を取り出して並べるときの場合の数の求め方を理解する。
4時	同じことを繰り返し行う場合に全部で何通りあるか考え、場合の数の求め方の理解を深める。

5時	いくつかのものの中から順番に関係なく2つを選んだときの組み合わせ方の総数を求めることができる。
6時	4種類の中から3種類を選ぶ組み合わせについて、図や表などを用いて考えることができる。
7時	学習したことを生かして問題を作ることができる。
8時 (本時)	友だちが作った問題について状況に合った解き方を判断し、図や表を用いて解き合うことができる。
9時	基本的な学習内容を理解し、図や表を用いて求めることができる。

4 本時の目標

友だちが作った問題について状況に合った解き方を判断し、図や表を用いて解き合うことができる。

5 本時の展開

学習活動と子どもの姿	指導者の支援・指導
<p>1、 これまでに学習してきた内容を確認する。</p> <p>2、 めあてを確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> <p>状況にあった解き方を考えよう。</p> </div> <p>3、 例題を提示し、解き方について話し合う。 ・ 例題がこれまでに学習してきたどのタイプの問題なのか判断する。</p> <p>4、 学級の友だちが作った問題に挑戦する。</p>	<p>○ これまでに学級で蓄積してきた「場合の数の考え方」を提示し、本時の学習に生かすことができるようにする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> <p>場合の数の考え方</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 並べ方 ・ A 順番 ・ B 取り出し+順番 ・ C くり返し ○ 組み合わせ </div> <p>○ 問題の状況によって解き方が変わることを確認し、自力解決に向けて意識できるようにする。</p> <p>○ 事前に児童が作った問題の中から指導者が選んだ問題に挑戦し、様々なパターンの問題に慣れていくことができるようにする。</p> <p>○ 「場合の数の考え方」を参考に、樹形図や表や図など様々な考え方が出るように促し交流の場面で多様な解き方に触れることができるようにする。</p> <p>○ <u>ロイロノートを使用し、一人ひとりの考え方を全体で共有する。</u> <u>大型モニターと1人1台端末の活用</u></p> <p>○ 自力解決後、班活動にすることで教え合いができるようにする。</p>

<p>5、班で解き方、考え方を交流し、解き方を確認する。</p>	<p>○答えを確認しながら、「どうしてその考え方になったのか」「違う図や表での考え方のよさ」の視点で話し合うことを伝える。</p>
<p>6、全体で様々な解き方が出てきた問題について話し合う。</p>	<p>○様々な解き方が出てきた問題を中心に交流し、状況に応じた解き方をしていくことの大切さに着目できるようにする。</p>
<p>まとめ 状況に合わせて、自分にとって分かりやすい方法で解決することが大切</p>	<p>○組み合わせについては、様々な図や表で考えられることを確認し、それぞれの考え方によさがあることに気付くことができるようにする。</p>
<p>7、本時の振り返りを行う。</p>	<p>○今日の学習で気付いたことや自分の理解度を振り返るように声をかけることで、考えを整理することができるようにする。</p>



情報機器を授業に取り入れた交流

(2)個別懇談会における音楽会の録画放映

2学期に実施した『篠っ子わくわくコンサート』（全校音楽会）がインフルエンザ拡大防止のため延期になり、延期した日も全校での実施が難しく、最終的に学年別発表会となった。学習参観であったが、度重なる変更で参観できない保護者がいたため、個別懇談会の期間中に大型モニターを使って各学年の発表の様子を録画して、繰り返し放映した。当日参観できなかった保護者にも児童の頑張る姿を見て頂くことができた。また、給食の時間

に放送委員会が、特別放送という形で放送することで、異学年の発表を子どもたちも互いに鑑賞することができた。

6 主な成果と課題

【成果】

- ・ 6年生算数科の実践では、ワークシートを印刷して配付する必要がなく、大型モニターで説明し、ロイロノートでワークシートのデータを見童の端末に送信することで見童が課題に取り組む時間を確保できた。また、共有ノートを活用することで、他の見童の考え方を自席でリアルタイムに見ることができ、自立解決時の手助けとなったり、自分の考えを広げたり、深めたりすることができた。班交流や全体交流の効率化だけでなく活性化にもつながった。
- ・ 6年生の卒業文集を書く際、タブレットを活用することで、見童の意欲向上、作文や漢字が苦手な見童の抵抗感の軽減になった。添削や修正が簡単で、時間効率が格段に上がった。

【課題】

- ・ 総合的な学習の時間を中心にタブレットを使用した調べ学習に取り組むことが多いため、低学年と3～6年生で活用頻度に大きな差が生まれている。さらに、ロイロノートも上学年では活用できているが、下学年では十分に活用できていない。発達段階に応じて、系統的にICT活用能力を養う必要があり、低学年から積極的に活用する場面を設定し、丁寧に指導していかなければならない。また、書く力（作文や板書をノートに書く等）を見童につけていくためには、見童が自分で書く活動を十分に設定する必要があり、タブレットに依存しすぎないように気をつけなければならない。
- ・ スムーズに活用できる見童とそうでない見童が両極端で存在している。見童だけでなく指導を行う教師にもICTの活用に抵抗がある者が少なくない。ICT推進教師や市から派遣されるICT支援員を中心に、研修を繰り返し、教師のICT活用能力を高めていく必要がある。
- ・ 一部の特別教室では、インターネットに接続できないため、オンライン環境の整備も課題である。